

2021年度 入学式別府大学長式辞

新入生のみなさん、入学誠におめでとうございます。学長の飯沼です。ここに参列できなかった保護者の方々にも心からお祝いを申し上げます。一昨年暮れに中国に発した新型コロナウイルスは世界を席捲し、未だパンデミックは続いています。しかし、冬を耐え抜けば、春は必ずやってきます。厳しさの向こうには、新しい展開が待っているはずです。

それでは、学長として、本学の教育の理念についてお話をしたいと思います。本学の建学の精神は「真理はわれらを自由にする」であります。1946年5月、長い戦争というトンネルを抜けて、別府大学の創設者・佐藤義詮は、別府大学の前身である別府女学院の開学に際して、新しい学校の理念としてこの言葉を掲げました。爾来この言葉は、別府女子専門学校、別府女子大学を経て現在の別府大学に引き継がれ、今日まで一貫した建学の精神です。

この言葉の根底には、佐藤義詮が学んだ、東京・お茶の水にあった文化学院の自由主義教育の思想が生きています。この学校は、教育者西村伊作、文学者与謝野晶子、与謝野鉄幹らによって創設された学校で、かれはその大学部の第一期生でした。ここで、自由な教育、個性的な教育、そして「小さくて良いもの」を目指す教育を学んだのです。

本学は学校としては、豊州女学校以来113年の長い歴史を持ちますが、新制大学として出発してから、昨年で70年の節目の年を迎えました。昨年は、原点を見直す様々な企画が数多く実施されましたが、コロナ禍で大きな行事はできませんでした。今年は、引き続き70周年の記念事業を継続するとともに、12月の終わりに、70周年を記念し、「原点から未来を見つめる」という趣旨で、全学でのイベントをビーコンプラザという大会場で企画しています。楽しみにしてください。みなさんは、その前に、まず創設者の名前の付いた18号館、佐藤義詮記念館の2階の大学史展示室に足を運んでみてください。それが本学の学生としての出発です。

コロナ禍は危機を煽り、かつての戦争のときのように、われわれの自由も危うくさせる可能性を秘めています。これは人類の大きな岐路だともいわれています。本学では、昨年度「学長指針」として「だれもが尊厳をもって生きられる社会」を目指す教育を進めていくことを表明しました。今年度も改めて、この指針を確認します。新型コロナウイルスの蔓延の中で、身近なところで様々な差別、統制が生まれています。真理探究の下では、人は自由であり、平等でなければなりません。これこそが、本学の目指す教育の本質です。そこでは、他人の於かれている環境、個人の個性や特性を認め、相手を思いやるやさしさが大切です。

私は共に育つという「共育」という言葉を日ごろから使っています。共に、学び、共に成長しましょう。今日から君たちは、建学の精神「真理はわれらを自由にする」の同志です。お互いを尊重し合い、真理を目指す学びの中で切磋琢磨し、人間力を養ってください。あらためて、われらの学び舎へようこそ。共に頑張りましょう。

令和3年4月3日

別府大学学長 飯沼 賢司